



2019年12月3日

## NALC Holland *Newsletter vol.8*

2019年もあっという間に12月。ニュースレター8号をお届けします。

(1) ナルクオランダは Stichting NALC HOLLAND となり、これに伴い、2020年1月より、新役員体制が始まりますのでお知らせいたします。(敬称略)

**会長**：岩崎国治 **書記**：平田クミ子 **会計**：松原佳代 **総務**：河南笑子

Ton Millenaar、岩崎正子は、役員会のアドバイザーとなりました。  
長田幾子、東雅子は一般会員となり、役員会のお手伝いをします。

### **Ton Millenaarからのメッセージ：**

3年以上前に、ナルクオランダの活動を開始しました。一步步、「時間預託制度」を構築し、助けを必要とする人々を支えてきました。貨幣ではなく、経済優先の逆をいくこの制度は必ず社会の中で必要となる、と確信して「ゼロ」から開始しました。これからも更に必要となることでしょう。相互に依存していくには時間がかかることが解りました。ナルク本部とのさらなる継続的連携にはもう一世代先の、若い人たちの力が必要なようです。ナルクオランダが更に助けを必要とする人々へサポートを提供する団体であり続けるために、今年末に岩崎国治氏が私の後継者として会長に就任します。私はアドバイザーとしての役割を果たしていきます。

### **岩崎国治からのメッセージ：**

2013年9月15日、Mr.Millenaar (以後、彼の愛称の「Tonさん」) と岩崎正子先生との「時間預託制度」、「NALC」についての講演があり、聴講しました。それがきっかけで、NALC Holland 発足チームの一員となり活動してきました。2016年9月NALC Hollandの発足後、発足チームが役員チームとなり、業務を分担して活動してきました。今年、2019年の役員会議でTonさんから「NALC Holland の会長として推薦したいが、どうかな？」と訊かれました。不安はありましたが「役員みんなの顔ぶれを見て、役員チームが協力していけば何とかなる、現在活動している会員の皆様も積極的で協力的である。」と判断できたので、しばらく考えたあと、「是非やらせてください。」と返答しました。

オランダで暮らす日本人同士の相互援助、そして皆さんが暮らしている地域でのボランティアを通し、より安心して、楽しい生活が送れるよう協力していきたいと思います。

日本人だけではないと思いますが、「人に援助を頼むのは気が引ける」、「大変高価な費用が掛かるのではないかと不安」などの理由があり助けを求められないでいる人もいるかもしれません。そのような人たちも、このNALCのシステムで助けてあげることができると思います。また、将来、何かの折に自分が、又はあなたの家族の誰かが援助を必要とした場合にも時間預託制度でためたポイントが使えます。時間預託制度に関しては、NALC Hollandのサイトに説明がありますので参照してください。

これから皆さんと協力して頑張っていきたいと思います。

(2) これまで、ナルクオランダの活動は主にアムステルダム近辺の地域で行われていましたが、この秋に東部ブランチが発足し、独自の活動を始めました。 その様子を別頁に報告しておりますのでご覧ください。

## 悲しいお知らせ

ナルクの役員の一であったJoost Hoekmanさんが11月16日、心臓発作のため、44歳の若さでお亡くなりになりました。役員一同、突然の訃報にショックから醒めない日々ですが、皆で彼の思い出を綴ってみました。



Joost Hoekman 氏

Joostはナルクオランダの立ち上げ準備の段階からずっとナルクオランダを支えてくれた大事なメンバーの一人でした。

発足させる際には、ゼロの状態から始めたので、彼は、Stichting WELnu (\*) を事務窓口（銀行口座など）として提供してくれました。

高齢者施設にたくさんのコネクションを持っていた彼は日本人でボランティア活動をしたい人をオランダの高齢者施設に紹介したり、役所や、施設にナルクの説明をしたりと、積極的に動いてくれました。そして彼はそれをいつも献身的ではあるけれど、とても自然体でやってくれたのが印象的です。

彼は日本語は話しませんでした。多くのナルクオランダメンバーといつも一体であったような気がします。彼は話し合いをする時に、相手を傷つけることなく話をするのがとても上手でした。相手の話をじっくりと聞き、とても真摯な態度で、「君のいうことはよくわかる。だけど、こうしたらどうかな？ 別の考えもあるよ」という具合でした。マネージメント、実務、プレゼンテーションなど全てに長けた人で、常に人に寄り添い、穏やかな笑顔を絶やさないう優しい人でした。

ナルク組織作りの点でもいいアドバイスをたくさんくれました。前向き思考の人でしたから、NALCのボランティア活動については、積極的に点数を移動させることで活性化させるべき、と言って、慎重派の他役員を揺り動かしていました。そんな時も相手が理解、納得できるまで、辛抱強く説明を繰り返していました。

今年の9月にナルクオランダが独立したStichting となった為、事務上の手続きをし、今後彼にはナルクオランダのアドバイザーとなってもらおう予定で、この12月に彼を交えて会議を開き、彼に謝意を表す予定でした。彼が突然いなくなってしまった驚き、悲しみは絶えません。彼の思い出は、彼の穏やかな笑顔とともにいつまでも私たちの心の中に残ることでしょう。

## 「ナルク・オランダ 東部発足式」

2019年9月22日に「ナルク・オランダ東部」の発足式（キックオフ）がArnhemのカルチャーセンターにて行われました。少ない参加者でしたが、なにより「ナルク」に興味を持ってくださっている方たちがお集まりくださったので、第1部の説明会においても第2部の座談会でも活発な意見や質問が出て有意義な時間を持てたと感じました。

「ナルク・オランダ」からは、代表のトンミレナーさんを始め、役員の岩崎正子さん、岩崎国治さん、河南笑子さんが出席、東部会員では世話役の私：ペータースと吉岡さんを始め、計13名での会合となりました。



第1部の「ナルク説明会」では、岩崎（国）さんが「ナルク」について概要説明をしてくださり、ミレナーさんが「時間預託制度＝タイム・バンキング」について詳しく説明をしてくださりました。休憩をはさんで第2部からは、輪になって座談会形式で、まずは自己紹介、そしてナルクに期待することや聞きたいことなど質問していただき、役員の方からそれに対する返答があり、活発に意見交換ができたと思います。すでにボランティアをしている方々のお話としては、高齢者施設に入っておられる日本人の方を訪問している方々の様子や、ケアファームでの活動の様子などが伺えました。中にはボランティア活動を



したいけれどもどこでどういう活動ができるのかわからない、という意見も。今後はナルク東部として、こういう方々を支援してボランティア活動の活発化を図っていきます。

今後、「ナルク・オランダ東部会」では、毎月第1日曜日にポットラックを世話役のペータース家@Oosterbeekで行ないます。東部発足式のあと、10月・11月のポットラックに集まっていたら、身近な話題やナルクの意義について語り合いました。次回12月1日は「忘年会」を兼ねて、来年1月5日には「新年会」、2月には介護のプロを講師にお迎えし、「認知症についての勉強会」を計画、3月には「チャリティ&ミニ・バザー」を予定しております。

☆3月の「チャリティ」に関しましては、只今「福島県」オランダの方たち、「HopStepJapan」の方たちと共に+日本企業の参加をお願いしており、具体的になりましたら、またご案内致します。その際には、会員の皆様のご協力を、よろしくお願い申し上げます。

[予定では、3月11日前後に、会場はAMSの教会で、という具合に奔走しています]

文責：信恵ペータース



“We are happy with the volunteers “  
Community Supported Agricultureシステムの野菜畑 Moestuin Leyduin

我が家から歩いていける距離のところに、1ヘクタールほどの広大な野菜畑があり、そこに定期的に通っています。たくさんの人が出入りするこの畑はよくあるVolkstuinの制度（区分けされた庭を各人が借りるシステム）とは違い、広大な畑で多くの人々が協力して野菜を育て、それをみんなで分ける制度なのです。ボランティアの存在が鍵となっており、そして「ボランティアとは何か」を再考させられる事になった、この畑の様子をご紹介します。

会員は年会費として275ユーロを支払います。これが二人tuindersへの報酬、畑の賃貸料、タネなどの購入、小屋の建築費などに当てられます。1年間のうちだいたい4月から11月まで、毎週野菜を収穫することができます。その種類と量は毎週異なり、サイト

<https://moestuinleyduin.nl/> や畑の小屋で見られます。

毎週木、金、土曜日が収穫できる日で、私はカゴを下げて収穫に行きます。収穫は自己申告制。小屋にあるノートの名前にチェックします。黒板に、「インゲン豆 250g。サラダ菜 1個。トマト250g、ハーブ類適宜」などと書いてあるので、それをメモして畑へ。インゲン豆の収穫は腰が痛くなるし、思うより時間がかかります。雨の時でも穫らなければ持って帰れません。



穫りすぎてしまったら、秤のそばに置いて、誰か他の人が持って行っていくのに使ってもらいます。「ハーブ適宜」、って？「好きなものを持って行きなさい」、という事で、つまり、この畑の決まりはとーってもゆるいのです。隣でインゲン豆を収穫していた初老のご婦人とちょっとおしゃべり。「綺麗な畑よね。それを眺めながら、自分が食べる無農薬野菜を収穫できるなんて、素敵なこと。」小さな子供達も元気に走り回りながらパパママ、あるいはオパオマの収穫のお手伝いをしています。野菜の名前をよく知っているようです。

さて。ではこの畑の野菜は誰が育てているのでしょうか？ここでは二人の tuinders：MargaさんとMarjaさんがリーダーシップをとっています。二人とも“Biologische Dynamische (BD) 農法を勉強した人たちです。その他は50人のvrijwilligers、stagiairesが4人、そして3人の zorgvraagerでこの広大な畑の野菜を、ほとんど農機具を使わずに世話しています。仕事は畑での作業だけでなく、収穫日に小屋の番をする人、大工仕事をする人など多岐に渡ります。誰がいつくるか、一覧表になっています。

そして、このボランティアの人たちは、会員の人が多いのです。つまり、そういう人は年会費を払い、ボランティアをし、そして野菜をもらって帰っているわけです。

私は当初、「お金を払い、ボランティアをしている人がいる」ということにびっくりしたのです。

しかし、地域の人々が協力して成立する、Community Supported Agricultureシステムは未来に繋げるべき事、と思いました。それだけ価値のある事であると思った時、人は本能に従って、社会にとって良いことを推進していくパワーを発揮するのではないかと思いました。さらに、美しい自然の中で、BDの野菜の事、食べるという事、ひいてはこの社会に生きるという事を再考するきっかけを頂

いたことに感謝しています。 私たち夫婦も、今ではこの農園に溶け込んで、それぞれボランティアをしています。

東雅子



## 二人の tuinders : Margaと Mariaさんへ インタビュー



**Q: お仕事は誰でもできることではありませんね。 良いところは何ですか？**

A: 私は自然の中にいるのが好きなので、こんな素敵な職場は他にありません。今朝は鹿を見かけたのよ。会員の人たちが、カゴいっぱい野菜を抱えて帰るのを見るのは嬉しいです。

**Q: いやなことはありますか？**

A: ここを野菜のお店のように思っている会員に出会ったこと。その人はこの制度をよく理解していなかったわけです。

**Q: ここには Social Function がある、と仰いましたね。その意味は？**

A: 「収穫祭」、「音楽付きの夕飯」などをここで企画します。ほとんどのことはボランティアの人たちが進めてくれます。異なるバックグラウンドをもつ人々が一緒にその企画を上手に勧めてくれるのを見て、ここはSocial Functionを持っているんだな、と感じたのです。また、ここでは「忘れ去られた野菜」も育てていますが、若い人は食べ方をよく知らないですから、年配の人たちが色々教えています。もちろんインターネットでも調べられますが、face to face で話をするのはいいことですよね。

**Q: ボランティアメンバーは必須？**

A: もちろん。ここを続けていくには、ボランティアのマッパワー、アイデアなどが必要です。みんな自分ができ、やりたいことをやってくれています。とても大切な人々です。

## 「おしゃべりレジ」

“ Klets-kassa “ (おしゃべりレジ) という名称が最近、目につきませんか？  
スーパーマーケットでレジの人とおしゃべりができるので、主に孤独なお年寄りがそこに並んで、ちょっとおしゃべりを楽しんでから帰る、というわけですね。また、店内のコーヒーコーナーにはヘルプ募集を書き込めるシステムもあるそうです。



他にも、高齢者基金との協力で高齢者をランチに招待するなど、スーパーが様々な形で高齢者サービスを行なっているそうです。スーパー側の話：「高齢者サービスは利益にはならないが、社会奉仕として行なっている。」

私は「セルフスキャンシステム」の導入でいよいよ店内無人化を図り、効率優先主義のスーパー業界ををよく思っていないでしたが。。。これで見直しました！

東雅子

出典：「ポートフォリオ オランダニュース」 <https://www.portfolio.nl/news/buz/show/2727>

## ～～ 2019/2020 年度 年間寄付納入のお願い ～～

ナルクオランダは年間寄付 (year contribution) を22ユーロと設定しています。運営に必要な諸経費 (会場費、消耗品費など) に充てています。どうぞ御協力お願い致します。

なお、正式に”stichting NALC Holland”が設立され、それに伴い銀行口座も変わりました。ご確認の上、お振込をお願い致します。

ご不明な点がございましたら、下記連絡先までお問合せください。

振込先：口座名 **stichting NALC Holland**

口座番号 **NL67INGB0006896387**

振込みの際に、2019/2020 contribution と記載をお願い致します。

連絡先：[kayenkayo@gmail.com](mailto:kayenkayo@gmail.com)

### Colofon

発行 NALC Holland URL: <http://nalcholland.nl>

担当：東、松原

連絡先：[masako@telfort.nl](mailto:masako@telfort.nl) / 06 2425 2523